



課外活動に一生懸命な高校時代

高校の特進コースでは、先輩や先生とのつながりが強かったです。入学後すぐに3年生の先輩に可愛がってもらい、先輩の所属する部活動に参加していました。気付けばバスケ、国際、歴史研究、理科、メディア広報部と5つの部を兼部していました（笑）

国際部で「放課後スクールことしる」という学童保育で、小学生に英語を教えていました。その活動を通して「高齢で家にいる地域の方と、子供たちが混ざり合う空間を作ることができないかな」と考えました。高校生ながら、市議や地元の人への提案を行いました。結果的には形にすることはできませんでしたが、地域の課題への興味はその頃からありました。

恩師からの勧めで富山大学経済学部へ

学童での活動も含め、当時は教育への関心が高かったです。高校の先生にもたくさん相談しました。他大学を一般入試で受験するつもりで勉強していましたが、恩師と話す中でビジネスという観点で教育に携わりたいと思うようになりました。富山大学経済学部を受験し、入学を決めました。

多岐にわたる経験を積みながら 地元南砺市の活動

大学に入ってから、人とのつながりを大切にしながら活動をしています。普段、周りにいる学生だけでなく、社会人や地域の人たちとも接点を持ってきました。そのおかげで、学生起業家としてライターの仕事、大学を休学してインドネシアへ半年間の留学、能登半島のボランティアなど、幅広く活動を行ってきました。その中でも、地元の南砺市に関わる地域活動への思いは、特に強いです。

南砺市20周年の企画実行委員に

僕の行動の原則は、「自分に関わる人に幸せであってほしい」という願いです。「自分の住んでいる地域がより良い場所になったらいいな」と思い、南砺市20周年の企画実行委員に手を挙げました。メンバーは20人ほど、35歳までの南砺市民で構成されており、僕は最年少です。地元愛を強めてもらうためにどうすればいいか考え、南砺市の成人式ならぬ「三十路式」を企画し、南砺市出身の29～31歳の人が集まるイベントを開催しました。南砺市出身俳優やアナウンサーに当日の進行をお願いし、参加者からの反響も大きかったです。他には「南砺市ロゲイニング」という、街を巡りながら南砺市の魅力に触れられるイベントも実施しました。南砺市で生活するみんながより住み良いところだと感じられる場所になってほしい。その思いで自分ができることにチャレンジしました。



お世話になった高校の先生へ

恩師としか言いようのないあなたに出逢ったことで僕の人生は大きく前進しました。これからも精いっぱい頑張りたいと思います。いつも遠くから見守ってください、ありがとうございます。